

愛教大

産休・育休の教員らに タブレット活用指南



梅田教授（右から2人目）らに教わりながらタブレットの活用方法に触れる参加者＝刈谷市の愛知教育大で

産休・育休中の教員や職場復帰して間もない教員らを対象に、授業などでのタブレット端末の活用法を指南する研修が15日、刈谷市の愛知教育大で開かれた。

児童生徒1人に1台のタブレットと高速大容量のインターネット通信環境を一体的に整備する国のGIGAスクール構想が近年、急速に進展した。教員不足が深刻化する中、最近の潮流に触れて職場復帰の不安を和らげてもらおうと、同大が研修を企画し、県内の小中学校の教員20人ほどが参加した。

情報教育講座の梅田恭子教授が講師を務め、「台形

の面積の求め方」などを例に活用法を紹介した。参加者は三角形や長方形などの面積の求め方を応用し、台形の面積の算出法をさまざまに考えて用紙に記載。用紙はタブレットで撮影し、クラウド機能で複数人で共有してそれぞれの算出法を見比べ、類似点を探した。梅田教授は「情報通信技術（ICT）を道具として使いこなす力が必要」などと呼びかけた。（諏訪慧）